

# 平成 28 年度 [大阪介護支援専門員協会堺市中区支部]での取り組み

## ～つながる事例検討会～

大阪府 大阪介護支援専門員協会堺市中区支部 協会役員  
○梶山 尚也、○糸川 裕美、永井 利則、○山本 貴代、○濱地 健志、  
○前岡 宏明、河野 晃久、○井村 憲市、牧野 雄市

### 【目的】

大阪介護支援専門員協会の支部として、堺市中区支部は平成 18 月 5 月に発足。平成 28 年の会員数は現在 80 名（平成 28 年 11 月）中区で働く主任介護支援専門員は 51 名。協会員のみになると 28 名である。中区支部での主な研修の内容としては、新任者を育てる『わかば研修』、そして経験者の質の向上を行う『よつば研修』、この 2 つを 2 本の柱として中区支部では取り組んでいる。

今年度は、介護支援専門員の質の向上を目指すという目的を掲げた。来年度は総合支援事業も始まる。今後は介護支援専門員、そして主任介護支援専門員には地域におけるその役割や、専門職として担うものも増えてくると考える。また、課題を明らかにして、その課題に取り組む力も望まれている。そのためにも、協会として、地域の介護支援専門員の質を向上して行く研修が必要だと考えた。

課題に取り組む力も望まれている。そのためにも、協会として、地域の介護支援専門員の質を向上して行く研修が必要だと考えた。

### 【方法】

手法としては、事例検討会。

地域で活躍できる介護支援専門員を育成し、地域の人や資源がつながることをイメージして、『つながる事例検討会』と名付けた。

事例検討の手法も様々ある。どんな形で事例検討を行うのが良いのか。また、事例提供者が事例を提出したことで「良かった、また出したい。」と思えるような事例検討を行うにはどうしたら良いのか。以上の視点から中区支部では 2 種類の手法を用いることにした。1 つは準備が少なく、事例検討ができる。そしてもう 1 つは、気持ちを考える事例検討。それぞれの特性は以下の通りである。

### 1) ホワイトボードケース会議

ちよんせいこ先生考案のホワイトボードミーティング。その活用の一つとしてケース会議がある。（ホワイトボードケース会議・以下 WB ケース会議）特徴は、あらかじめ事例を記載したものを用意しなくて良いというところにある。

ファシリテーターが事例提供者から状況を聞きながら、本人やキーパーソンの強さやリスクを可視化して行く。利用者のエピソードを中心とした状況をイメージしながら、関わりを検討するものである。



### 2) 当事者理解を深める事例検討

植田寿之先生が、事例検討の際行う手法である。検討内容を 4 段階(事例紹介、質問、仮説、取り組み)にわけ、司会とスーパーバイザーを置き事例検討を進める。事例は事前に詳細を事例シートに記載し、事例検討の際にはシートを共有する。仮説の段階で利用者や家族の気持ちを中心とした考えを持つことで、事例検討する側立ち位置に一貫性を設け、関りを検討する。



参加者は、中区の介護支援専門員、専門職として理学療法士、看護師には毎回参加してもらい、その他、デイやヘルパー等、多職種で検討できるようにした。

どちらの事例検討会においても、事例の課題や今後の取り組みを話した後、最終的にその事例から見えてくる地域課題を抽出し、提案ができる内容までを考えるように工夫した。

(研修日時・参加者)

7月	検討方法の研修	24人	WB方式
9月	つながる事例検討1回目	25人	WB方式
10月	検討方法の研修	19人	当事者方式
11月	つながる事例検討2回目	25人	当事者方式

7月と10月には、それぞれの先生に、講師として事例検討会の手法を学ぶ研修を行い、9月と11月には、実践方式で協会の役員がファシリテーター、スーパーバイザー役として配置し、実際に実施した。

#### 【結果】

- ・ 同じ着眼点を持つことができた。
- ・ 役員がファシリテーターや司会進行を行うことで、スキルアップできた。
- ・ 支援に向き合える力がついた。
- ・ 事業所内でも、事例検討ができた。
- ・ 地域の中での課題を少し明確化することができた。
- ・ 協会としての役割も明確化した。

事例検討というと、イメージとして事例をまとめるのに手間がかかる。あるいは、出した事例について避難をされるのではないかと。2回の実践事例からそういった意見は出なかった。参加者のアンケートの内容も満足度したという内容であった。2つの手法は今後、事例提供者の希望もききながら、ケースによりどちらの手法で行うのが適切なのか、ということ役員で検討する。

#### 【考察】

平成28年度は定期的な事例検討ができる場を、協会が提供し実践して行く土台づくりを行なった。

次年度は、年に4回実践方式の事例検討を行う予定。中区支部で行う事例検討は、『つながる事例検討会』というタイトルである。人とつながる。ものにつながる。時間につながる。思いにつながる。つながりの先にあるものは、福祉ではないかと考える。

そこに必要なのは専門職としての倫理感ではないだろうか。協会員として、倫理観を持ち、この事例検討会を継続する事が、地域力そして介護支援専門員の力にもつながると考えている。

平成28年度の取り組みであるが、次年度に向けての課題も多く残されている。

- ・ 参加者が少ない。  
→特に介護支援専門員の参加は少ない。
- ・ 行政側への働きかけ  
→事例検討への参加を含む

本来ならばもっと、地域の介護支援専門員が、自分の抱えている事例を積極的に出し、普段一緒に活動している多職種の方々と事例に向き合いながら、その課題にも取り組めることが理想である。

しかしながら、現場の介護支援専門員の参加少ないのも事実である一方、この研修の意向に賛同して多職種の方にも事例検討会に参加して頂けるようになってきている。行政との関わりとしては、地区の基幹型地域包括支援センターへ報告するに留まっている。今後開催されるであろう「地域ケア会議」として、この事例検討の場を活用できれば、と考えている。そうするためにも行政側に参加をしてもらおうということも検討課題である。

#### 【結論】

これからも、事例検討を重ね現状を訴え、改善策を提案して、そしてまた、訴え提案して行く。地域包括ケアシステムを構築する上で大切なものは現場での意見。現場が困っていると感じていることを、行政と一緒にどのように地域で取り組んでいけるかである。それを成功させて行くには、継続した関わりが必要なのではないだろうか。その先にあるものが、地域力であり、ほんとの意味で「つながる」ということだと思う。

#### 【参考文献】

- ※ 岩瀬直樹・ちよんせいこ (2012) 『よくわかる学級ファシリテーション・テキスト：ホワイトボードケース会議編』 解放出版社
- ※ 植田寿之 (2015) 『日常現場で実践する 対人援助スーパービジョン』 創元社